美濃桃山陶の魅力発見

可児市の歴史・文化を語る上で欠かせない美濃桃山陶。その技術を追求する陶芸家とその技法、気軽に体験できる陶芸講座（7ページ）を紹介します。

問合先　文化財課

現代に息づく美濃桃山陶

可児市が世界に誇る美濃桃山陶。今から約400年前、久々利の大萱・大平地区では、国宝の志野茶碗「卯花墻（うのはながき）」に代表される優品が生み出されました。しかし市内の美濃桃山陶は、わずか数十年の最盛期を経て、次第に衰退してしまいました。果たして、桃山陶をつくりだす技術は、廃れてしまったのでしょうか―。

いいえ、可児で活動している現代の陶芸家には、桃山の陶工たちの魂が脈々と受け継がれ、今も数々の作品が生み出されています。

重要無形文化財を4件指定

可児市教育委員会は、平成30年3月、美濃桃山陶の「黄瀬戸」「瀬戸黒」「志野」「織部」の4つの陶芸技術を新たに重要無形文化財として指定しました。

形のない「技術」を、重要無形文化財とし、その技術を持った人（技術保持者）を同時に認定します。

今回、市内在住の6人の陶芸家を技術保持者に認定しましたので、紹介します。

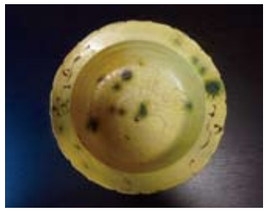
指定した美濃桃山陶の伝統的技法

黄瀬戸

桃山時代につくられた黄色の焼きものです。黄色を発色するもととなる釉薬は、草木の灰（灰釉）を使ったもので、中には緑がかった色合いのものもあります。

黄瀬戸は「瀬戸」の名が付いていますが、美濃で多く焼かれたことが分かっています。可児でも桃山時代の黄瀬戸が窯跡から見つかっています。

美濃桃山陶の中では、瀬戸黒と並んで、早い時期から焼かれています。



黄瀬戸の技術保持者　作品：黄瀬戸輪花鉢

原　憲司さん（久々利在住）

黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部・井戸などを焼く

瀬戸黒

特徴的な黒さを持つ焼きものです。これも「瀬戸」と名が付いていますが、主に美濃の窯で焼かれたことが分かっています。もちろん、可児でも焼かれていました。

独特の黒色は、鉄釉（鉄分の入った釉薬）を使い、高温の窯から引き出して、急速に冷却することで発色します。

焼く際にすぐ引き出せる位置に置くため、大量生産できない焼きものです。

瀬戸黒の技術保持者　作品：瀬戸黒茶埦

豊場　惺也さん（久々利在住）

瀬戸黒・黄瀬戸・志野などを焼く

志野

独特の白色の焼きものです。灰色がかった鼠志野、赤みがかった赤志野などの種類もあります。

国産の焼きものでは、焼く前に絵を描く下絵付けの技法を初めて採用したことでも知られています。長石を主体とした釉薬を使って焼きます。

志野は可児市発祥という説もあり、美濃焼を代表する焼きものであるとともに、本市を代表する焼きものでもあります。

志野の技術保持者　作品：志野茶碗

加藤　弥右衛門さん（久々利在住）

志野・黄瀬戸・織部・美濃伊賀などを焼く

志野の技術保持者　作品：志野茶碗

堀　俊郎さん（久々利在住）

志野・粉引・黄瀬戸などを焼く

志野の技術保持者　作品：志野鉢

守谷　宏一さん（久々利柿下入会在住）

志野・瀬戸黒・美濃伊賀・美濃唐津などを焼く

織部

たくさんの色が使われた、ユニークなデザインの焼きものです。伝統的な円形にとらわれず、多角形や、歪んだ不整形の器がつくられました。

装飾も斬新なもので、伝統文様と幾何学文様を織り交ぜた、個性ある意匠を生み出しています。

織部というと、緑釉（緑色の釉薬）が多く使われますが、決まった色はなく、自由な色使いで焼かれています。

可児では、弥七田織部と呼ばれる、織部の中でも芸術性の高いものが焼かれました。

織部の技術保持者　作品：鳴海織部鉢

瀧口　喜兵爾さん（久々利在住）

織部を中心に焼く。茜織部を創作する

可児市無形文化財・作品展 を開催します

今回、無形文化財の技術保持者に認定された6人の陶芸家の作品が一堂に会する作品展です。ぜひお越しください。

期　間　6月13日（水）~7月16日（祝）
休館日　6月18日・25日、7月2日・9日の各月曜日
時　間　午前9時～午後4時30分
場　所　可児郷土歴史館（久々利）
入館料　200円（高校生以下無料）